

こんにちは！戸田の会です。



埼玉県戸田市議会

戸田の会

レポート vol. 27
(2025年9月発行)



野澤しげまさ

宮内そうこ

小沼さゆり

辺見智子

衛生センター火災

戸田の会で国へ意見書を提出!! ▶▶▶

2025年7月12日(土)正午頃、蕨戸田衛生センターで火災が発生。粗大ごみ処理施設から出火し500㎡以上を焼く大惨事となりました。ごみ収集を3日間休止しましたが、市民生活への影響は思いのほか小さく抑えられたと言えるでしょう。現在、ごみ収集施設の大部分は稼働していません。市内で収集したごみは、一度センター内に仮置きし、そこから大型トラックに積み替えて、県内の市町村や都内のごみ処理施設に運び込み、処理を委託しています。復旧までにかかる費用は、現段階で約41億円が見積もられています。

戸田市民の利益を守るために、原因の検証と再発防止を十分に行うこと、市税からの負担を抑えることが求められ、議会として埼玉県、衛生センター組合に対する意見書の提出を実施。また、火災の原因と思われるリチウムイオン電池の処理については、国による製造・輸入事業者への規制、各自治体に対するノウハウ提供や財源支援が求められます。そこで、戸田の会から「リチウムイオン電池の適正処理と火災防止対策の強化を求める意見書」を提案し、満場一致で採択。国に提出しました。

▼リチウム電池の適正処理を求める意見書



JR高架下の荒れ地「環境空間」

埼京線沿いの広大な荒れ地。「何の土地だろう？」と思ったことはありませんか？
この土地は埼京線の開通時、両側に20メートルずつ確保された「環境空間」といいます。騒音、振動を防止するための目的ですが、その用途に戸田市からの厳しい制限があるため、40年以上にわたり放置されることになりました。夏には背丈をこえる草が生え、小動物や虫がわくなど、市民の方から苦情を頂くこともあります。

未利用の荒れ地は約8000坪。1坪100万円としても80億円の価値のある土地が放置されている現状を見れば、政策として失敗だったことは明らかです。

このたび、「環境空間」の活用に向けた制限の緩和が、戸田市とJR東日本の間で締結されました。その内容は、住宅や店舗としての利用を推進し、環境整備を行う等です。有効活用は望ましい一方、ひとたび開発されれば100年単位の街並みとなることから、十分な検討が求められます。戸田の会は、次の提案をしています。



会派インターンシップで視察(7/13)



北戸田駅南側の環境空間

1. 線路沿いに「側道」として車道を整備すること。

- ➡ 袋小路の回避、高架下の有効活用がねらい。都内の中央線のように高架下を店舗や飲食店として活用し、周辺住民が利用できるよう促す。現状の側道は歩道であるため活用しづらく、より道幅の広い車道の整備が必要。

2. JR側と戸田市が設計・コスト負担で共同すること。

- ➡ 現状の枠組みは、JR側が計画を申請し、戸田市側が認可する、という一方的なもの。例えば、①JR側が「環境空間」内の側道整備を行う。②戸田市側が接続する道路の整備を行う...のように力を合わせれば、道路は改善し、市民にとってもプラスになるのです。

図書館の本がつまらない

【25年6月議会質問より】1か月に1冊も本を読まない人は63%。特に若者の読書離れが進みます。子供の読書習慣は一生の財産。図書館を子供にとって居心地の良い、たとえば放課後に集合したくなる場所にするのが大事です。図書館の課題は...

- ①子供・若者の本がつまらない。蔵、さいたま市の図書館と比べて、読書の入り口となるような本がない。
→本購入の基準を変更し、お堅い「名作・資料」中心→少しでも子供が興味を持ちそうな本を仕入れる。
- ②図書館の中心は小説や新聞など娯楽目的。子供がリラックスして利用できるスペースが少ない。
→図書館の運営を工夫。たとえば、①子供のスペースを広げる②簡単な飲み物、おやつを用意し無料で提供する③静かなおしゃべりをOKにする...等。
- ③雰囲気暗い。空気がホコリっぽい。
→民間のデザイナーを導入し、空間や空調を改善。

最近、子供むけの面白い本がたくさん出ています。YouTubeやネットフリックスを見始める前に、好きなものに関する本を夢中になって読む、読んでいううちに情報を本から仕入れる習慣がつく、という展開に持ち込むことが大切です。



さかい いくろう
酒井郁郎

代表・5期・改革
議運委員長・総務

【経歴】50歳。東京大学医学部大学院、マッキンゼー（コンサル）保育・医学教育事業。予備自衛官補 【資格】国会議員政策秘書、保育士

【笹目地域に横断旗を設置】

～地域の交通安全と継続的な支援体制をめざして～

あそう 過去に交通事故が発生した笹目地域の交差点に、新たに「横断旗」を設置しました。これは地域の皆さまからのご要望を受け、交通安全協会のご協力のもと実現したものです。横断旗は歩行者の存在を目立たせ、ドライバーに注意を促す役割を果たし、特に子どもや高齢者にとっては、安全に横断しやすくなったと喜ばれています。



一方で、この横断旗の維持・管理は町会などが担うことが前提となっており、旗の破損や紛失への対応、交換時期の判断など、日常的な管理を地域で行う必要があります。さらに、交通安全協会から「今後の横断旗の更新も地域でしてほしい」との方針が示されており、町会にとってさらなる負担となります。限られた予算の中で継続的に旗を購入・交換していくことは現実的に難しく、今後は行政の予算措置に加え、市内企業や団体の皆さまからの協賛・ご支援が不可欠です。交通安全という共通の目的のもと、地域全体で子どもたちや高齢者の安全を守る仕組みを築いていきたいと考えています。これからも地域の声を丁寧に受け止め、小さな改善を一つひとつ積み重ねながら、安全で安心できるまちづくりを進めてまいります。



あそう かずひで
浅生和英

幹事長・3期・議長
改革・市民生活

【経歴】大宮高校、法政大学、山一證券、美容室VASE
【資格】社会福祉士、精神保健福祉士、防災士、保育士

彩湖・道満グリーンパークの発展

佐藤 彩湖・道満グリーンパークは、ポテンシャルの高い公園です。多彩な運動やレジャーの場を整備しながら収益向上を図ることで、さらに魅力ある公園へと発展できると考えています。

例えば、私のもとにはランニングステーションやバスケットゴールの設置を望む声が寄せられています。現在、年に1度、利用者の声を聞き取り調査しているようですが、その結果を公表するとともに、看板にQRコードを掲示するなど、多くの市民ニーズを拾い上げ、反映する仕組みをつくる必要があります。

また、現在のドッグランや手ぶらでバーベキューは大変人気の高い収益事業です。加えて、日本財団から約1.9億円の助成を受けた「渚の交番プロジェクト」も進行中です。この事業では、水害時にも移動可能なトレーラーハウス6棟を水辺のステージ跡地に設置して、キャンプや宿泊の拠点とするほか、防災意識を醸成するワークショップなどにも活用する計画です。令和8年4月の開設を目指しており、事業開始後の3年間は助成を受けますが、その後は維持費などのランニングコストが発生します。今後は、経営の見通しを持った持続的な運営を期待します。



拠点のイメージ



さとう たかのぶ
佐藤太信

3期・改革
文教建設委員長

【経歴】中央大学、大正大学院、東京電力、児童福祉施設、乳幼児教育相談、スクールカウンセラー 戸田市身体障害者福祉会会長 【資格】臨床心理士

肺がんX線検診と脳ドックの限界

やざわ 肺がんの死亡数は年間7万人で全がん最多。肺がん検診の主流である胸部X線は、日本独自の検査で課題も多く、早期発見率は僅か3割。肺がんの見落としとして訴訟に発展した事例もあります。世界的な主流は低線量CTです。日本でもやっと今年4月の新ガイドラインで「重喫煙者への低線量CT検診」が推奨になったため、喫煙者への早急な低線量CTの導入を求めました。その一方で、今回の改訂後も煙草を吸わない多くの方はX線が主流です。X線の課題やCTの有効性の情報発信を行いつつ全市民への低線量CTの導入を求めました。

新しい肺がん検診(案)

たばこを吸わない人/時々吸う人
胸部X線検査
(40-79歳、1年に1回)

たばこをたくさん吸う人/
たくさん吸っていたが止めた人

胸部X線検査
(40-49歳、75-79歳、1年に1回)

低線量CT検査
(50-74歳、1年に1回)
禁煙指導



さらに現在、戸田市では75歳以上の方へ脳ドックの助成を行っていますが、これも日本独自の検査であり、特に症状や医師の指示がない高齢の無症状者は、受診の際に注意が必要です。

○寿命延伸や脳卒中予防への科学的根拠が乏しい。

○高齢者の異常の多くは加齢性のもの。小さな梗塞等は手術リスクが高く、積極的な治療を行わないのが一般的。むしろ不安や追加検査の負担だけが増える。

肺がん検診は、国の対応の遅れが最大の課題ですが、市も主体的に推進し、市民の健康に資する検診としていただきたいと思います。



やざわ はるか
矢沢青河

3期・まちづくり
健康福祉委員長

【経歴】1986年5月21日生 茗溪学園、鹿児島大学、FM局 県議秘書(菅原文仁現市長)
【所属】戸田市消防団(第七分団)
【資格】防災士

実働版HUG訓練と「かまどベンチ」

野澤 防災訓練における実働版HUG訓練の意義について。

危機管理 自主防災会と市が協力して、連携しながら対応を決めていく経験をするのが目的。

野澤 カード上で想定出来る事象については、訓練時に急遽考えるのではなく、事前に取り決め・準備し、訓練にて確認すべき。

野澤 避難所利用計画における一般教室の利用は。

危機管理 授業の開始に支障が懸念されるため一般教室を使用せずに特別教室を使用する。

野澤 スフィア基準や水害時対応を考慮すると、一般教室も想定した部屋割りにするべきと考える。

野澤 住民版防災訓練は小学校のみでの開催だが、指定避難所が最寄りの中学校や公共施設の地域もある。今後、自分達が住んでいる地域の避難所において防災訓練を行うよう要望する。

野澤 公園・広場のかまどベンチの活用について。

環境経済部 地域の意見を聞き、市内の公園・広場の内、7箇所に10基のかまどベンチを設置。

野澤 かまどベンチを利用した防災イベントは「共助」として絶大な効果がある。今後、地域の自主運営に対する支援を要望する。



防災かまどベンチ炊き出し体験会



のざわしげまさ
野澤茂雅
2期・議会広報
総務委員長

【経歴】県立宇都宮高校、東京理科大学工学部、SE、IT関連会社代表、保育園保護者会後援会会長、小中高PTA会長、町会副会長、戸田市モルック協会会長

父子家庭の支援強化を！

宮内 父子家庭の父親がひとりで仕事・子育て・家事のすべてを担うことは想像以上に過酷であり、時間的・体力的・精神的には明らかに困窮している。少数派である父子家庭を孤立させない相談体制や、ひとり親の父親がもっと家事・育児支援を受けられる支援体制を求める。

健康福祉部 父子家庭の相談が来た際は、相談員が丁寧に困りごとを聴きとり、適切に支援サービスにつなげていく。また、父子家庭がサービスの利用や相談をためらうことがないように、チラシやホームページ等で父子家庭にも利用を呼び掛けていく。

宮内 男性は社会に助けを求めずらく、父子家庭の支援体制をさらに強化すべきである。

給食着をノン
アイロンに

宮内 ノンアイロンタイプの給食着の導入を要望するとともに、保護者が給食着にアイロンをかける負担を減らす取り組みを提案しました。

教育委員会 「現在、ノンアイロン素材の給食着の購入を進めており、今後も各学校で周知していく。」との前向きな答弁をいただきました。



みやうちそうこ
宮内奏子
2期・まちづくり
文教建設

【経歴】戸田南小・戸田中、浦和第一女子高校、慶応義塾大学（文学部英米文学科）・英検1級・TOEIC 970点・英語翻訳者（特許・法律分野）・2児の母

新曽福祉センターのホールについて

小沼 地域の文化活動の場として長年親しまれてきた新曽福祉センターホールについて、①利用状況、②市民ワークショップでの意見、③今後の方針を伺いました。

令和6年度では、223件、1万4千人以上に利用され、ピアノを使ったイベントも多数。文化会館に比べて身近で使いやすいとの声がある一方、設備の老朽化が課題とされています。

市民ワークショップでは、「文化発信の場としてホールを継続してほしい」「音楽室が欲しい」といった意見が寄せられ、東部・西部福祉センターについても特色を活かした施設整備の希望が出されました。また、トイレの洋式化など、誰もが使いやすい設備への改善も要望しました。

特にグランドピアノの老朽化について指摘し、更新の必要性を訴えました。ピアノは演奏者の表現を支える「文化の舞台」です。市からは「前向きに検討する」との答弁がありました。施設全体の再整備とあわせて、文化芸術を支える環境整備が着実に進むよう、今後も注視してまいります。



こぬま
小沼さゆり
1期・議会広報
市民生活

【経歴】1987年9月21日生、戸田東小、東邦音楽中学・高校・大学卒、ファミリー音楽教室
【所属】上戸田商店会、戸田市商工会青年部

女性の身体における変化へ支援

辺見 生理のつらさ、PMSでの気分の浮き沈み、更年期の不調など、ホルモンバランスの変化の悩みや困りごとを「病院に行くほどじゃない」「誰にも相談できない」と我慢していませんか。実は、女性特有の健康課題による経済損失額は3.4兆円とも言われています。

本市では、各健康イベントや健康教室事業、検診、「からだところに関する相談窓口」を実施しています。しかしながら、「市民に情報がきちんと届いていない」「自分ごととして受け取られにくい」という課題があることから、感情に届くような周知・啓発活動の強化を市に要望しました。

体調やこころの変化は、誰にとっても身近なことです。自分の健康を守るために「検診を受けること」もとても大切です。受診券が届いたら、そのままにせずぜひ一度チェックしてみてください。また「こんなことで相談していいのかな？」と思うことこそ、相談してみてください。

最後に男性の皆様へ

パートナー・職場の仲間・ご家族のことを思い浮かべながら、情報を知る機会として、イベントや広報をご覧くださいませ。



へん み とも こ
辺見智子
1期(最年少)・議
会広報、健康福祉

【経歴】1993年12月2日生
國學院大學経済学部卒業
製造業の法人営業で現場を経験
金融教育の講師として全国行脚
ミスアジア・ミスワールドグランプリ

川口クルド人問題

戸田の会で国へ意見書を提出!! ▶▶▶



今年クルド人問題として様々な事件が報道され、参院選では大きな争点となりました。インターネット上では攻撃的な意見ばかりで対話が乏しく、市民の間に不安だけが広がっています。国や戸田市は、早急に外国人問題の解消に向けた道筋を示すべきではないでしょうか。

「戸田の会」の提言

- 1. 国は、今後の外国人政策を議論し、早急に方針を示すべきだ
- 2. 国・自治体は、欧州で失敗が明らかとなった「多文化共生」(日本語や習慣の習得を前提とせず、外国人を受け入れる方針)を早急に修正すべきだ
- 3. 国は、外国人に有利な制度、脱法的な抜け穴を是正すべき。捜査機関は、外国人の脱法行為(不法滞在その他)を厳格に捜査・立件すべき



戸田の会はこれらの前提の上で、冷静な議論が必要と考えます。外国人排斥のような極端な主張は日本の風土とは相いれません。「国益に合った外国人は入れる、そうでない外国人は入れない」というシンプルな基準で判断すべきです。

～会派内での課題認識～

○現状は、クルド人の日本語や文化・習慣を習得しないまま集住しており、日本社会への溶け込みが不十分。若者の中には孤立感を持つ人も多く、非行に走る者もいるようである。

○他方、在留資格があり真面目に働くクルド人もいる。「クルド人はすべて悪」とは言えない。国の制度の問題であるため、クルド人へのヘイト的な活動ではなく、国への働きかけを優先すべき。

○外国人が少なかった時代のルールを改正し、「犯罪・迷惑者の優先的な送還」「難民審査・送還のスピードアップ(就労目的の申請を抑止)」「解体業の悪徳事業者を取り締まるルールづくり」「日本語習得の義務化」など、1つ1つ課題に対応すべきだ。

➡「外国人による犯罪・不法就労の防止に向けた実効性のある対策を求める意見書」を戸田の会が提案(21対3で採択)。議会として国に提出へ。

川口クルド人ヤード視察(7月29日)

- 本年6月、クルド人ヤード(解体業の資材置場)を視察した議員が、所有者のクルド人から追跡を受け、脅迫を受けるという事件が起きました。事態を重く見た戸田の会は、クルド人ヤードの視察と聞き取りを実施。なお、ヤード内を視察した議員は初めてとのこと。
- クルド人側の脅迫行為は論外だが、クルド人作業員によれば、ヤードに来て作業員や家族を挑発したり、無断撮影・投稿する動画配信者がおり、警戒感が広がっていたとのこと。報道によれば、県議、市議はアポなしでヤードを訪れ、車の中から撮影と目される行為を行った(防犯カメラに映っている)。仕事熱心なのは分かるが、行為自体は動画配信者と同じであり、配慮不足ではと思われた。
- 近隣住民から以前あった苦情は、トラックや仕分け作業の騒音、日照などについてとのこと(これらが法律違反であるかは不明)。トラブルは条例により改善を図るのが有効と思われた。

戸田橋花火大会

今年も盛大に花火大会が催されました。すっかり夏の風物詩として定着した一方、その運営方法についてはつねに議論されてきました。

収入	戸田市などから1.8億円、有料席チケット売上0.7億円
支出	有料席運営0.7億円、除草など0.6億円、警備0.4億円、花火代0.3億円、その他

2年前の大会から、イベント会社に委託し、大規模な大会となりました。花火代が意外に安いこと、有料席が黒字化していないことなどが分かります。そしてなんと！人口の3倍もの人が見に来ています。河川敷で見ている人の大部分は市外の人です。

そこで、皆様に現状をお知らせし、ご意見を頂きたいと思います。

花火大会の会派アンケートはこちら➡



埼玉県戸田市議会
戸田の会

戸田市政に関するご意見・ご要望
はこちらまで、お寄せください。



郵送 〒335-0034 戸田市笹目5-4-15
ホームページ todanokai.com
メール info@todanokai.com